

# 緑化だより

No.196 令和5年8月号



キツネノカミソリ

- 季節の花(サンカクイ(知草))
- 水生昆虫の話  
(サワダマメゲンゴロウ)
- 小さな世界こけ(ミズゴケの仲間)
- 研修会のご案内
- お知らせ・ご案内
- 展示会

ryokka 遊学の森

広島県緑化センター



〒732-0036 広島市東区福田町 10166-2



広島県  
緑化センター  
二次元コード

TEL 082-899-2811 FAX 082-899-2843 URL <https://ryokka-c.jp>

# 季節の花

## 知草(しりくさ)(サンカクイ)

「湖葦(みなとあし)に 交(まじ)れる草の 知草(しりくさ)の

人みな知りぬ わが下思(したおもひ)」

柿本人麻呂 万葉集 卷 11-2468

これを訳しますと

(河口付近の水辺の葦(あし)の中にひっそりと交じって芽を伸ばして生えている、知草(しりくさ)、その名のように、私がひそかに思い続けている人の思いが、みんなに知られてしまいました。)

湖は近江の湖(琵琶湖)のことで、知草は水辺に生えている草でサンカクイのことです。知草の「知り」と「…が知られる」に通じています。ひっそりとした恋の芽吹きが知られてしまった様子です。この歌は「ものに寄せて思を陳べたる歌三百二首」の一首で、秀歌に選ばれています。

サンカクイは カヤツリグサ科フイ属で、日本全土の池や川に自生しています。国外ではアジア大陸から、ヨーロッパ大陸に広く分布しています。茎の断面が三角形で草丈は1メートル前後で藺草(いぐさ)によく似ているのでこの名がついたと言われています。

7~10月頃に茎の先端に柄の付いた花序を付けます。

その花序の苞葉が鋭く伸びてとがっているのが、鷺(さぎ)の尾に見立て「鷺の尻刺し」の別名があります。

地下茎を横に長く伸ばしながら広がって節々から1本ずつ茎を立ち上げるため株状になりません。よく似たカンガレイは花序に柄がなく株状に生えています。

台湾の大甲区ではサンカクイを利用して「大甲むしろ」という敷物を作るので「むしろ草」「大甲」とも呼ばれています。おしゃれな「籠バッグ」が作られて、日本にも輸入されています。(上村)



太田川川岸のサンカクイ

# 水生昆虫の話

## サワダマメゲンゴロウ

近年、水田や自然護岸水路、ため池など、人間の活動により維持されている豊かな二次的自然が、戦後から現在に至る土地利用や人間活動の急激な変化等で減少し、環境が劣化しつつあります。

更に、水田の害虫駆除として利用されている農薬の影響もあり、こういった二次的自然を主な生息環境としている水生昆虫や淡水魚の多くは、環境省が作成しているレッドリストで、絶滅危惧種数が改訂の度に増加しており、危機的な状況にあります。

そんな、日本のあちこちで姿を消しつつある水生昆虫の一種でもあるゲンゴロウの仲間は、こういった厳しい二次的自然環境で多くの種が生息しています。

ゲンゴロウのような泳ぎ回ることができる昆虫は、外来種に見つかりやすく捕食されるリスクが高いこともあり、特に中型から大型のゲンゴロウは急激に減少しており、今まさに絶滅の危機に瀕しています。そんな日本に生息するゲンゴロウの仲間で、最も上流に生息する種である「サワダマメゲンゴロウ(ゲンゴロウ科モンキマメゲンゴロウ属)」は、清流・溪流に住む小型の流水性ゲンゴロウ科で、流水性種としてはメジャーな種類で、北海道、本州、四国、九州に分布しており、日本固有

種でもあるそうですが、九州の一部の県ではレッドデータブック『絶滅危惧Ⅰ種』や『絶滅危惧Ⅱ種』に指定されています。

サワダマメゲンゴロウの成虫は約8mm前後で、他のマメゲンゴロウよりも翅がデコボコしていてツヤがない真っ黒の姿をしています。夜行性で、昼間はじっと隠れていますが、源流域や標高の高い位置にある池や、細流や溪流で流れが弱くなっているスギの葉や広葉樹の葉が堆積した淀みなどの砂地や石の間などで見つけることができます。

幼虫は、写真のように成虫とは全く姿が異なり、口には牙があって体はイモムシのような、なんだか不思議な形をしています。大きさは約13mmで、初めて見たときには、頭部の黒い模様が、まるで怪盗Xのアイマスクみたいな感じに見えて、興味を惹かれました。大きな牙のようなアゴからも想像ができるようにもちろん肉食で、カゲロウの幼虫など他の水生昆虫を食べて生活しています。

中下流域でも広く見ることができるモンキマメゲンゴロウの幼虫とパッと見た感じとても良く似ていますが、テイルの部分に黒い斑紋がないので違うと判断できました。

もし、こんな姿の水生昆虫を見つけたら、文一総合出版の水生昆虫①「ゲンゴロウ・ガムシ・ミズスマシハンドブック」で何の種類なのか調べてみると、違いがわかるので面白いですよ。(西村)



サワダマメゲンゴロウの幼虫



近縁種のモンキマメゲンゴロウの成虫

## 小さな世界 こけ

### ミズゴケの仲間

ミズゴケ科のコケは日本で約50種類が知られています。大半は亜高山地帯などに生育しますが、オオミズゴケなど低地でも見られるものもあります。

ミズゴケの仲間は、伸びた茎の側面から放射状に枝を出し、葉は茎の周りに密生します。葉の細胞には、大型で空洞になった水をためる細胞(透明細胞)と、小型で葉緑体をもった光合成を行う細胞(葉緑細胞)が交互に並んでいます。この透明細胞の表面には穴があり、内部に多量の水を蓄えられるようになっています。この特性から園芸用の材料として利用されるため乱獲され、絶滅が心配されています。

緑化センターの第4駐車場の上の段、東山作業路、集いの広場などの水がしみ出る斜面ではオオミズゴケがマットを作っています。オオミズゴケは大型のコケで、雌雄異株。茎は10cm以上伸び、先端で茎が放射状に広がり、1.0~2.0mmの葉をつけます。

隣の広島市森林公園では、オオミズゴケやホソベリミズゴケを観察することができます。

オオミズゴケは広島県準絶滅危惧、ホソベリミズゴケは広島県絶滅危惧Ⅱ類に選定されています。(山根)



オオミズゴケの群落



オオミズゴケ

## 研修会のご案内

- 8月6日(日) 『水生昆虫を探してみよう』  
溪流の水生昆虫を採集して、観察します。  
5歳以上小学生以下対象(小学3年生以下の児童が複数参加の場合、保護者は2名以上つくこと)  
※要予約(定員に達しました)、無料、雨天中止  
10:00～12:00 第2駐車場 集合  
講師:環境カウンセラー  
西村 浩美
- 8月20日(日) 『夏休み自由工作塾』  
※自由参加、(随時受付)、材料費1作品100円、荒天中止  
10:00～15:00 レストハウス裏庭  
講師:緑化センターボランティア  
ふれあい湧
- 8月27日(日) 『夏休み自由工作塾』  
※自由参加、(随時受付)、材料費1作品100円、荒天中止  
10:00～15:00 レストハウス裏庭  
講師:緑化センターボランティア  
ふれあい湧

## お知らせ・ご案内 ☆

第7回ひろしま遊学の森

四季の移ろい写真コンテスト

写真募集中 締切り;11月30日(木)

詳細はHP,チラシでご確認ください。

## ◎ 展示会

場所:レストハウス

(ボード展示)

令和4年度 広島県愛鳥週間ポスター  
入賞作品展

～8月9日(水)

はずき会「日本画作品展」

8月20日(日)～9月30日(土)

(ガラスケース展示)

琉球紅型染め

～8月30日(水)

場所:学習展示館

(ボード展示)

季節の花 写真展

～8月31日(木)



令和4年度広島県愛鳥週間  
ポスター入賞作品展より



「琉球紅型染め」より